移住相談会

人口減少対策や地域活性化につなげるため、都市部での移住相談会に参加しています。

ウミガメ公園防災拠点施設

当地域の災害復旧復興の要となる防災拠点の早期完成に向けて整備が進められています。

サイクリング

昨年には、自転車愛好者の交流を深め健康で安全な地域づくりを目的にイベントが太平洋岸自転車道で開催されました。

キャニオニング

キャニオニングとは、滝壺にジャンプしたり、天然ウォータースライダーを下るなど、さまざまな下降テクニックを使って渓谷を下るスポーツです。

の5，457人を記録して以降、減少傾向です。

政府は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけの方針について、オミクロン株とは大きく病原性が異なる変異株が出現するなどの特段の事情が生じない限り、本年5月8日から、5類感染症に位置づけることを決定しましたが、今後の感染状況を注視し、迅速かつ的確に感染防止対策を図っていきます。

本町ではこれまで、新型コロナワクチン接種機会の提供をはじめ、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、町民の皆様への生活支援、PCR検査等費用の全額助成、福祉施設や学校における感染拡大防止対策、自宅療養者等への生活支援、影響を受けた事業者への支援、また、原油価格や電力・ガスをはじめとする物価高騰に対して、町民生活や地域経済を支援する町独自の事業を実施してきました。

今後も引き続き、町民の皆様とともに感染に対する警戒を強め、これからウィズコロナ時代に移行するなか、政府の方針及び感染状況に応じた感染防止対策と支援策の実施に最大限努めていきますので、ご理解とご協力を重ねてお願いします。

新型コロナワクチン接種については、現在、初回接種（1・2回目）が終了した12歳以上の方には、オミクロン株対応ワクチン接種を実施しているところです。

また並行して、初回接種、生後6か月から4歳までの乳幼児接種、5歳から11歳までの小児接種についても接種を行っています。

令和5年度以降の接種については、本年2月22日に開催されました厚生労働省の予防接種・ワクチン分科会において、現行の特例臨時接種の実施期間を延長し、春から夏にかけて高齢者等、重症化リスクが高い方、及び医療機関や高齢者施設等の従事者に対して1回接種、秋から冬にかけて全ての方に1回接種を行う方針が示されています。

引き続き、希望される町民の皆様に円滑に接種していただける体制の構築に努めていきます。

移住・定住

移住・定住対策については、人口減少対策や地域活性化につなげるため、近年は都市部における移住相談会への参加やオンライン移住セミナー、出逢い交流イベントの開催、各種支援制度の整備など様々な施策を講じています。

総務省が公表している「住民基本台帳人口移動報告書」から分析した民間調査によりますと、令和元年と令和3年を比較した30代から40代の転入超過率の改善幅は、東海4県の市町村のなかで本町が4位となるなど、これまで着実に取り組みを重ねてきた成果が表れてきています。

従来から取り組んできました「空き家バンク制度」や「移住新生活支援」、「結婚新生活支援」などに加え、「住宅購入支援」や「空き家改修支援」、「奨学金の返還支援」など支援制度をさらに拡充したほか、「空き家バンク登録奨励金制度の新設」や「移住定住支援員の設置」など官民連携による取り組みを強化してきました。

令和4年4月から本年1月末時点で本町に移住された方々は、40世帯66人にのぼり、計55件の各種支援制度をご利用いただいています。

さらなる支援制度の拡充、新たな地域おこし協力隊の委嘱による町内の空き家活用の推進や、移住希望者へのサポート体制の強化のほか、熊野市、御浜町と連携した広域での出逢い交流イベントの開催などにも取り組み、引き続き各課で横断的に連携を図りながら、町が実施する住まいや仕事、結婚、妊娠、子育て等といった切れ目のない支援の情報や町の魅力を発信し、移住を考えられている方が本町に興味を持っていただき、「行ってみたい」、「暮らしてみたい」と思っていただける施策の充実に努めます。

ウミガメ公園防災拠点施設

近い将来、南海トラフを震源とする巨大地震の発生が懸念されているなか、津波による甚大な被害が予想される熊野灘地域での救援・救護活動、緊急物資の輸送等を迅速に行うため、防災拠点の整備を道の駅「紀宝町ウミガメ公園」に隣接する敷地において国土交通省により進めていただいています。

町としても、より安全・安心な道の駅とするため、さらに同拠点内に一時避難場所を確保するべく、防災拠点施設の建設を進めており、令和4年12月に本体工事に着手し、本年10月末に完成する予定です。かねてより本町が要望していました整備が着実に進められ、大変喜ばしく思っています。本地域の災害復旧・復興の要となる防災拠点施設の早期完成に向け、さらに国との連携を図り、防災機能の充実・強化に努めていきます。

観光振興

観光振興については、飛雪の滝キャンプ場と道の駅「紀宝町ウミガメ公園」の両施設を核として、町の有する魅力的な自然や文化などを積極的に発信し、観光誘客や交流人口の拡大に努め、その効果を町内の観光施設や商業施設に波及させていくためさらに取り組みを進めていきます。

商工・観光業については、長引くコロナ禍で大きな影響を受けていましたが、昨今のアウトドアブームや両施設の指定管理者による創意工夫、国、県、町の各種施策などにより、現在は両施設ともに来場者数は順調に回復し、コロナ禍以前を上回っている状況にあります。

今後においても、町と事業者が緊密に連携し、引き続き多くの方々にご来場いただけるよう、さらなる集客を図っていきます。

また、飛雪の滝キャンプ場テントサイトにウッドデッキを整備したほか、令和3年5月には町内の一般国道42号を含む太平洋岸自転車道が「ナショナルサイクルルート」に指定されるなど、サイクリングにかかる地域の機運が高まっていることから、道の駅「紀宝町ウミガメ公園」にシャワー設備及び駐輪場の整備を行い、サイクリングの一層の推進、本地域における滞在環境の向上に取り組んでいます。

令和4年7月には、株式会社キャニオンズ様が、紀宝町を拠点として地域の雄大な自然を活かしたキャニオニングのサービス提供を開始されています。観光事業者も増加しているなかで、今後もウィズコロナ、ポストコロナの新しい時代における社会・価値観の変化を予測し、町内の自然と文化にふれ、キャンプ場・道の駅・観光及び宿泊事業者などと連携し、「町内での滞在型観光」の仕組みづくりなど様々な取り組みを講じ、さらなる集客につなげていきます。

また、令和3年に熊野尾鷲道路が全線開通するなど、着実に整備が進む近畿自動車道紀勢線の延伸に伴い、交通アクセスが向上しており、大都市圏からの移動時間も短縮しています。

平成31年4月には紀宝熊野道路、新宮道路が新規事業化され、新宮紀宝道路の令和6年秋の完成が間近となり、本地域においても紀宝熊野道路事業が進むなかで、町内への休憩施設の整備要望を行うなど、道路整備効果を見据えた商工・観光をはじめとした地域振興に取り組み、観光客や交流人口の増加を図っていきます。

自治体DX

総務省が策定した自治体DX（デジタル・トランスフォーメーション）推進計画では、自治体においては自らが担う行政サービスについて、デジタル技術やデータを活用し、町民の利便性を向上させるとともにデジタル技術やAI等の活用により業務の効率化を図り、人的資源を行政サービスのさらなる向上につなげていくことが求められています。

本町においては押印の見直しを行い、窓口などに提出いただく書類について原則押印を廃止したほか、「情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例」を制定し、マイナポータル内の「ぴったりサービス」から子育て・介護に関するオンライン申請やフォーム作成ツールを導入するなど、行政手続きのオンライン化に向けた取り組みも進めているところです。

また、公式LINEの開設を予定しており、行政からのお知らせを手軽に受け取れる環境を整備するとともに、オンライン申請と組み合わせて、例えば「イベントの開催通知から申し込み手続きまでがオンライン上で完了する」といった、簡潔かつ利便性の高い行政サービスの構築を進めていきます。

さらに、誰もがデジタル技術の恩恵を受けられるように、スマホ教室を開催するなどデジタルデバイド（情報格差）の解消に取り組んでいきます。

次ページへつづく↓